

子どもたちの世紀

春夏号

公益財団法人 小児医学研究振興財団

2023年4月1日



(留学先トロント小児病院 吉年俊文先生撮影)

令和4年度 研究助成金交付対象者 選考結果一覧表

令和4年度 海外留学フェローシップ・ 優秀論文アワード 選考結果

特別寄稿 第127回日本小児科学会学術集会会頭に就任して

～ Bright futures to your birth! ～

君の誕生に輝かしい未来を!



九州大学大学院医学研究院
成長発達医学分野(小児科)
第127回日本小児科学会学術集会会頭

大賀 正一

2024年、第127回日本小児科学会学術集会の会頭を仰せつかりました九州大学成長発達医学の大賀正一です。九州・沖縄ブロックでは6年ぶり、九州大学としては約20年ぶりの担当です。同年は教室開講120周年にあたり、大変名誉なことでございます。

COVID-19はこどもたちの環境を激変させました。出生数減少は加速し、保育や学校教育、職場環境の変化から多くの課題に直面しました。戦争と災害も世界中の人々の暮らしに影響しています。私たちは正確な情報とワクチンの重要性を実感し「小児科学の原点とは“感染と遺伝”の間で成長と発達をとげるこどもたちを守ることであり」と再認識しました。この3年間、からだの距離(social distance)をon-lineでカバーし、こころの距離を最適化する方法も整ってきました。同時に、ゲノム医療、免疫細胞療法、遺伝子治療が実装され、分子標的療法も進歩し、新生児スクリーニング、出生前診断や生殖医療が拡大しています。

こどもたちの誕生に輝かしい未来を約束する医学を実現することが私たちの使命です。人類に刻まれる進化の歴史を意識しながら、こどもたちのadvocatorとしての学術活動が期待されています。“生命(いのち)を育む”という命題を、小児医学と医療から国際的に考え、

on-lineとon-siteを駆使して国内外の演者と議論を深めたいと思います。学会場は海に近い福岡市の中心地です。コロナ禍を経験した私たちが、大陸を望む博多湾から世界を見渡して、“その子の誕生の輝かしい未来への思い”を共有する機会になれば幸いです。

会期は2024年4月19日(金)から21日(日)の3日間、会場はヒルトン福岡シーホークです。ポスターにこどもたち一人一人の願いを込めました。こころを繋ぐハイブリッド開催で、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

令和4年度 研究助成金交付対象者 選考結果一覧表

① 小児医学領域全般に関する研究費助成 (Research Grants for Pediatrics)

後藤隆之介	長野県立こども病院 東京大学医学部附属病院小児科 小児科専攻医	Adolescents of Ukraine During the 2022 Russian Invasion (AUDRI) Cohort
滝澤 慶一	東京大学医学部附属病院小児科 助教	尿中細胞外小胞の網羅的アプローチによる低出生体重児関連腎症の新規バイオマーカー探索と早期診断法の開発
宮本 幸	国立成育医療研究センター 薬剤治療研究部 上級研究員	髄鞘変性症に対する新規治療標的因子の探索
上坂 直史	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科認知神経生物学分野 教授	発達期の歯周病が脳機能に及ぼす影響とメカニズムの解明
吉田 健一	国立がん研究センター研究所がん進展研究分野 分野長	小児がんPDXのゲノム解析による新規治療標的の探索

② 妊産婦・乳幼児・小児の栄養に関する研究助成金 (アサヒグループ食品研究助成金)

野口 優輔	東京医科歯科大学大学院医歯学 総合研究科発生発達病態学小児科 大学院生	一絨毛膜双胎の子宮内発育から小児期のより良い栄養を考える
河合 智子	国立成育医療研究センター 研究所 周産期病態研究部 胎児発育研究室 室長	母体血清Vitamin D量と児のDNAメチル化値の関連解明

③ 小児の社会医学的研究助成金 (疫学・統計含む)

小原 隆史	岡山大学病院救命救急科 研究助教	人工呼吸器管理を要する重症小児患者のER/ICU関連因子と長期アウトカムに関する追跡調査 (多施設共同前向き研究)
森宗 孝夫	滋賀医科大学小児科学講座 助教	リアルワールドデータを用いた新型コロナウイルス流行後の小児疾患の発症頻度調査
石塚 一枝	国立成育医療研究センター社会医学研究部 研究員	10代のやせとレジリエンスに関する全国調査
佐々 美保	東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻 国際保健政策学 博士後期課程学生	日本における公的統計を用いた小児・周産期指標の疫学的探索とその評価指標の再評価及び検討
岩谷 祥子	大阪大学大学院連合小児発達学研究科 こころの発達神経科学講座 助教	幼児期の睡眠に関連する生活習慣と運動精神社会的発達並びに客観的脳指標との関連

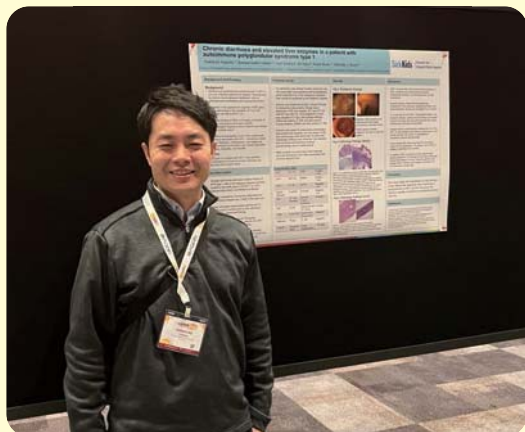
④ 海外留学フェローシップ (小児医学全般)

藤田あさひ	東京大学大学院 医学系研究科 大学院生	小児緑内障の個別化医療実現に向けた治療効果評価および予後予測モデル構築
伊佐 真彦	京都大学医学部附属病院小児科 医員	未報告の自己炎症性疾患を通じた新規のヒト免疫恒常性機構の解明

留学体験記

トロント小児病院 (SickKids) 小児消化器 肝臓栄養部門への留学記

小児消化器肝臓クリニカルフェロー 吉年 俊文



Halifaxで開催されたCDDWでのポスター発表

この度は、名誉ある「海外留学フェローシップ助成」を受賞し、大変光栄に存じます。2022年7月よりトロント小児病院 (SickKids) にて小児消化器肝臓クリニカルフェローシップを開始致しました。このプログラムは、アメリカのACGMEにも認められているClinical fellowshipとResearch fellowshipが組み合わせられた3年間のプログラムであり、Academic Gastroenterologist/ Hepatologistを育成することを目的としています。最大の特徴はDiversityであり、同期にはカナダ、インド、サウジアラビア、ドイツ、日本出身の5人がおり、他学年のフェローも合わせると計10カ国から集まっています。このDiversityの重視は、フェロー同士が各国の疾患背景や治療の違いを共有し、帰国後も関係を継続することで、国際多施設共同研究を容易にする環境を創ります。私の研究メンターは、北米小児消化器肝臓栄養学会 (NASPGHAN) の会長に今年就任したVicky Ng教授と、炎症性腸疾患 (IBD) とClinical Epidemiologyを専門とする

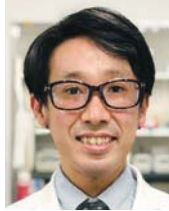
令和4年度 海外留学フェローシップ・優秀論文アワード 選考結果



海外留学フェローシップ (小児科領域全般)

藤田 あさひ 東京大学大学院 医学系研究科

この度は海外留学フェローシップにご採択いただき、心より感謝申し上げます。小児緑内障は若年期に高度の視機能障害を来しうる重要な疾患ですが、その実臨床での診療実態や治療効果は十分には明らかにされていません。留学先では全米の眼科患者レジストリーを解析して小児緑内障診療実態を明らかにし、治療効果解析および予後予測モデル構築を通して個々の症例に応じた治療選択を可能にすることを目指します。小児緑内障診療の発展に貢献すべく、研究に励んで参ります。



海外留学フェローシップ (小児科領域全般)

伊佐 真彦 京都大学医学部附属病院

◆ 未報告の自己炎症性疾患を通じた新規のヒト免疫恒常性機構の解明

この度は海外留学フェローシップに採択いただき、心より感謝申し上げます。

私は自然免疫系の過剰免疫応答を基本病態とする自己炎症性疾患の機能解析に取り組んでおります。留学先では、現時点で未報告の新規原因遺伝子Xが自己炎症性疾患を引き起こす機序を明らかにし、炎症惹起の制御機構に迫りたいと思っています。留学先ではしっかりと研究成果を上げ、世界の小児医療の発展に貢献できるように精進してまいります。



小児医学研究振興財団アワード和文誌(公益社団法人日本小児科学会雑誌)

岩丸 良子 済生会川口総合病院小児科

◆ 2週間健診時に評価した母親の産後うつ傾向リスク因子 日本小児科学会雑誌126巻(2022年), 7号 1011-1017 原著

今回このような賞をいただき大変光栄に思います。この研究を通じて母子の健康をサポートするための一歩を踏み出せたことを嬉しく思います。また、この研究に協力してくださった全ての方々に深く感謝しております。今回の研究結果が2週間健診を実施している、もしくはこれから実施する予定の医療機関で参考になりましたら幸いです。今後も小児科医としてより多くの母親と赤ちゃんの健康に貢献できるように努めていきたいと思っています。



小児医学研究振興財団アワード欧文誌(Pediatrics International)

山口 有紗 国立成育医療研究センターこころの診療部

◆ The coronavirus disease 2019 pandemic and the rights of the child in Japan.

Pediatrics international 64巻(2022);e14913

この論文では、国立成育医療研究センターのチームによる調査結果をもとに、新型コロナウイルス感染症の流行が子どもの生活にどのように影響を与えたかを、「子どもの権利」の視点から考察しました。こども家庭庁やこども基本法でも、子どもの権利の実現が柱となっています。今回の受賞が、子どもの権利を軸にwell-beingを捉えることの拡がりにつながればとても嬉しいです。成育のチームの皆様、そして何よりも声を届けてくれた子どもたちに、心から感謝を申し上げます。



福山・加我アワード(一般社団法人日本小児神経学会 機関誌)

石井 隆大 久留米大学医学部医学科小児科学講座

◆ The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (CSHQ-J): A validation study and influencing factors Brain and Dev2022; 44: 595-604

この度は、映えある優秀論文アワードを頂き誠にありがとうございます。多くの方々に支えられながら、形にして還元する難しさを実感した思い入れの深い研究でした。自分だけの研究成果でなく皆様への感謝を第一にしようと思います。なので、研究の協力していただいた全ての方々に感謝を申し上げ、これからもこの研究成果と今後の小児神経および睡眠医療の担い手として精進と研鑽を続けようと考えています。



福山・加我アワード(一般社団法人日本小児精神神経学会 機関誌)

多門 裕貴 清川遠寿病院 東北大学加齢医学研究所 応用脳科学研究分野

◆ 社会的コミュニケーション症の診断に向けた特性に関する検討 小児の精神と神経, 2022; 62 (1): 79-85

この度は、名誉ある賞にご選出頂き誠にありがとうございます。本研究は前職である国立成育医療研究センターこころの診療部における検討で、社会的コミュニケーション症と自閉スペクトラム症の鑑別の際に、SRS-2対人応答性尺度と比喩皮肉文テストを組み合わせることの有用性を検討したものです。研究にご協力頂いた患者さん・ご家族、ご指導頂いた小枝達也先生に心より感謝申し上げます。これからも患者さん・ご家族の幸福のために臨床と研究に励んでまいります。

Eric Benchimol教授です。初年度は100%臨床業務に従事しておりますが、幸運にも2つの研究を開始することができました。1つは、北米最大の小児肝移植センターである当院のデータを利用し、Anonymous living donor liver transplants(全くの他人からの肝移植提供)に関するSocial determinants of healthに関する研究や、小児期肝移植後の成人における予後や合併症に関する研究です。もう1つは、IBDのサルコペニアに関する観察研究やメタアナリシスです。その他の研究活動としては、北米(米国、カナダ、メキシコ)全ての小児消化器フェロー(1年目)が招待される NASPGHANの1st year fellow conferenceに参加し、臨床や研究についての討議ができました。また2023年3月にはCDDW(カナダ最大の消化器肝臓学会)でポスター発表をしました。

世界の一流施設で、臨床と今後の研究によりネットワークを広げ、帰国後に日本の研究者や後輩小児科医に貢献できるように精進いたします。



CDDWにおけるSickKids GI フェローとの集合写真(筆者は右上)



研究助成金

- ① 小児医学領域全般に関する研究費助成 (Research Grants for Pediatrics) 総額 700万円 1件200万円以内
② 妊産婦・乳幼児・小児の栄養に関する研究(アサヒグループ食品研究助成金) 総額 100万円 2件程度
③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む) (Research Grants for Social Pediatrics) 総額 300万円 1件100万円以内

研究を目的とした留学に対する助成

- ① 小児医学領域全般に関する海外留学奨学金 総額 350万円
② 子どもの心の問題に関する国内外への留学奨学金 総額 150万円

優秀論文アワード (機関誌に掲載された原著論文のうち、優秀論文の筆頭著者を褒賞)

小児医学研究振興財団アワード<和文誌><欧文誌> 日本小児科学会

福山・加我アワード 日本小児神経学会、日本小児精神神経学会 及び日本小児心身医学会

賛助会員 (個人)

※敬称略 五十音順

相原 雄幸 赤坂 真奈 旭 壮一郎 芦田 明 安次 肇 東 寛 足立 雄一 熱田 裕 鮎沢 衛 新垣 義夫 荒川 浩一 有賀 正 飯島 誠 家原 知子 五十嵐 隆 石井 アケミ 石井 尚吾 石井 正浩 石倉 健司 石崎 朝世 石崎 優子 位田 忍 井田 孔明 井田 博幸 市田 路子 伊藤 悦朗 伊藤 秀一 伊藤 末志 伊藤 進 伊藤 辰夫 伊藤 保彦 伊藤 雄平 稲垣 治 稲垣 由子 井上 哲志 井原 健二 井原 幸子 今井 秀一 今泉 益孝 今村 俊彦 岩田 敏 岩元 二郎	内田 正志 漆原 樹 江口 尚彦 衛藤 隆 衛藤 義勝 遠藤 文夫 小穴 慎二 老田 礼子 尾内 一信 大賀 正二 大川 洋二 大久保 美登里 大澤 真木子 大嶋 勇成 大藁 恵一 太田 和秀 大塚 孝信 大友 正純 大西 耕策 大野 伊織 大守 明賢 岡田 純一 岡田 緒方 岡田 賢一 小川 俊一 小川 潤一 小口 学 奥山 真紀子 小栗 絢子 小坂 仁 小坂 慈 小田 美知子 小野 靖彦 賀川 治美 河西 紀昭 西治 正行 勝部 康弘 加藤 剛二 加藤 達夫 加藤 均 加藤 誠 加藤 正彦	加藤 元博 加藤 陽子 門脇 弘子 金子 一成 加納 芳郎 鴨下 和子 河川 浩史 川又 はるみ 神崎 晋 貴岡 節子 北中 幸子 北本 育子 木野 稔 木村 宏 日下 隆 楠原 浩一 工藤 協志 久保 政勝 窪田 満 倉辻 忠俊 倉田 繁夫 桑原 尚志 郡 建男 小池 健一 小泉 晶一 小泉 ひろみ 河野 幸治 河野 陽一 幸山 洋子 神山 潤 兄玉 浩子 後藤 彰子 後藤 敦子 後藤 雄一 小林 繁一 小林 正夫 是松 聖悟 小山 典久 小山 佳紀 犀川 太 齋藤 和由 齋藤 伸治	斎藤 進一 佐伯 雄規 嵯峨 夫 酒井 康成 酒井 由美 坂本 弘子 佐々木 嘉彦 佐々木 望 椎谷 由里 四方 あかね 重松 陽介 柴田 瑠美子 嶋田 泉司 清水 俊明 下条 直樹 下野 昌幸 下村 国幸 白井 真美 白石 裕比湖 白川 嘉継 末延 聡一 杉浦 壽康 杉本 圭相 杉本 久和 鈴木 英太郎 鈴木 孝 鈴木 敏雄 鈴木 康之 須田 憲治 須磨 亮 清野 佳紀 関 秀俊 関口 進一 瀬島 齊 高島 俊夫 高橋 協 高橋 孝雄 高橋 勉 高橋 尚人 滝沢 琢己 滝田 順子 宅見 徹 竹内 則夫 竹重 博子	博久 進一 進一 雄規 久雄 康成 久美 由美 久弘 弘子 久彦 嘉彦 久望 望 久由 由里 久介 陽介 久美子 瑠美子 久司 泉司 久明 俊明 久直 直樹 久幸 昌幸 久美 国幸 久湖 裕比湖 久継 嘉継 久聡 聡一 久相 圭相 久和 久和 久太郎 英太郎 久孝 孝 久敏 敏雄 久康 康之 久治 憲治 久亮 亮 久佳 佳紀 久俊 秀俊 久進 進一 久齊 齊 久協 協 久雄 孝雄 久勉 勉 久尚 尚人 久己 琢己 久順 順子 久徹 徹 久則 則夫 久博 博子	竹島 泰弘 竹谷 健久 武知 哲久 竹広 茂子 田島 雅弥 橘 篤 田中 浩 玉井 正徳 田村 勝一 千田 秀男 長 秀男 塚田 明子 辻 章志 續 晶子 堤 裕幸 鶴澤 正仁 手塚 正雄 デブラ 尚子 寺井 勝 寺田 春郎 寺本 貴英 照井 君典 遠山 拓郎 戸部 創 外木 秀文 富沢 修一 永井 崇雄 永尾 尚子 長澤 克俊 永島 哲郎 中坪 希美 中西 浩一 中野 貴司 中畑 貴俊 中原 智子 中村 公俊 永光 信一郎 成田 雅美 難波 範行 難津 直樹 西久 保敏也 西澤 嘉四郎 西卷 滋 新田 康郎 根来 民子	橋口 玲子 橋本 和廣 長谷川 俊延 長谷川 泰延 長谷川 茉莉 長谷川 美香 長谷川 有紀 長谷川 行洋 羽田野 爲夫 服部 元史 馬場 常嘉 濱田 洋通 早川 依里子 原 寿郎 張田 豊 波呂 久美子 日暮 眞 平尾 敬男 平山 雅浩 廣瀬 伸一 深澤 隆治 福重 一郎 藤井 達哉 藤枝 幹也 藤岡 雅司 藤木 伴男 藤田 弘子 藤村 匠 藤脇 建久 藤二 真秀 船戸 正久 船曳 哲典 舟本 仁一 平家 俊男 別所 文雄 逸見 睦心 坂本 シゲリ 星加 美恵子 保科 弘毅 保井 創 細矢 光 堀川 玲子 前川 喜平 前多 治雄 前田 美穂	前野 正木 増谷 聡 松井 智子 松尾 宣武 松尾 雅文 松尾 宗明 松平 隆光 松原 知代 真部 淳 丸山 剛志 丸山 博 三池 輝一郎 三浦 健一 水谷 修紀 水野 克己 三湖 浩 南 志保子 南沢 享 三牧 正和 宮入 烈 宮尾 見代 宮城 雅也 宮島 祐 宮代 英吉 宮本 晶恵 麦島 秀雄 村上 巧啓 村瀬 雄二 村田 要一 本村 知華子 元山 福祥 森 哲夫 森内 浩幸 森尾 友宏 森口 直彦 森下 秀子 守田 利貞 森田 友明 盛武 浩 森脇 浩一 八木 信一 安木 大地 安田 寛二 柳川 幸重	山内 穰 山内 秀雄 山形 崇倫 山川 毅 山岸 敬幸 山口 清次 山下 薫 山下 裕史朗 山下 亮子 山城 雄一郎 山田 恭聖 山野 恒一 山本 圭子 山本 威久 山本 玉路 山脇 英範	横田 俊一郎 横田 俊平 横谷 進 横山 茂 横山 義正 吉川 哲史 吉田 康子 吉田 ゆかり 吉原 重美 脇 研自 脇口 宏 和田 和子 渡邊 信雄 渡辺 博 渡部 礼二
---	--	--	---	---	---	--	---	---	--

賛助会員 (法人)

アサヒグループ食品株式会社
エーザイ株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

アサヒグループ食品株式会社
アステラス製薬株式会社
株式会社オグラ
JCRファーマ株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
ファイザー株式会社
マルホ株式会社

寄付者

加我 牧子/吉川 武志
松永 雅道

賛助会費は、所得税控除または
税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601/FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

編集後記

「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

約3年間にわたるコロナ禍の中で、ほぼすべての人が活動自粛を余儀なくされてきた。

ようやくCOVID-19感染症の流行が沈静化し、人々の活動が再開されつつある。子どもたちが身体・心理・社会的にのびのびと活動できる環境を整備したい。さらに、我々の診療・研究活動もこれまで以上に力を込めて行いたい。

(常務理事 五十嵐 隆)